

中部山岳国立公園の公園計画の変更（一部変更）の概要について

1. 背景

中部山岳国立公園は本州の中央部に位置し、北は白馬岳から南は乗鞍岳にかけて 3,000m 級の高峰が連なる我が国でも屈指の山岳公園です。中部山岳国立公園の北部には、立山連峰、後立山連峰などの 2,000m～3,000m 級の山々が連なり、ライチョウに代表される野生動物が生息し、様々な高山植物群を見ることができます。

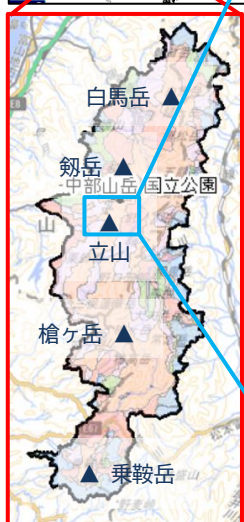
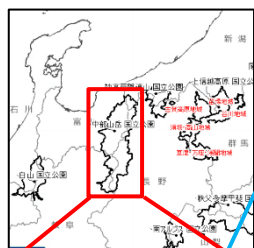
本国立公園の中央に位置する立山黒部アルペンルートは富山県立山地区と長野県扇沢地区を結ぶ山岳観光路線であり、室堂、劔岳などの立山地域を代表する自然景観に至るルートとして、年間 70 万人を超える利用があります。

その中で、標高 2,450m の室堂駅から標高 2,316m の大観峰駅までの 3.7km の区間は、平成 9 年 12 月 12 日に無軌条電車の運営に係る室堂大観峰線鉄道運送施設事業の執行認可を受けて立山トンネルトロリーバス（以下、トロリーバス）が運行されてきましたが、現在運行中のトロリーバスは老朽化が進んでいます。また、平成 18 年改正「鉄道に関する技術上の基準を定める省令」において、トロリーバスについても安全装置の設置が義務付けられましたが、現在トロリーバスの製造の需要は少なく、安全装置設置に係る部品の製造が行われていないため、新たなトロリーバスの導入は困難な状況となっています。そのため、同省令の経過措置によるトロリーバスの運行は令和 7 年 3 月で廃止され、令和 7 年 4 月からは電気バスが供用されることとなっています。

以上の状況を踏まえ、これまでトロリーバスの運行が行われてきた区間について、今後は電気バスに変更して公園利用を継続していくため、公園事業となる施設の種別を鉄道運送施設から自動車運送施設へ変更するため、公園計画の変更（一部変更）を行うものです。

中部山岳国立公園

※今回の主な変更点



自動車運送施設（室堂大観峰線）の追加 鉄道運送施設（室堂大観峰線）の削除



地図は環境アセスメントデータベース (<https://www2.env.go.jp/eiadb/ebidbs/>) により作成

2. 変更案のポイント

保護規制計画については現行のとおりとします。利用施設計画について、立山トンネルトロリーバスの運行を令和7年3月で廃止し、令和7年4月からは電気バスにより供用する計画に合わせて、室堂大観峰線鉄道運送施設を室堂大観峰線自動車運送施設に変更するものです。

3. 変更案の詳細

○利用施設計画

・運輸施設

追加：室堂大観峰線（自動車運送施設）

起点－富山県中新川郡立山町（室堂集団施設地区）

終点－富山県中新川郡立山町（大観峰）

廃止：室堂大観峰線（鉄道運送施設）

起点－富山県中新川郡立山町（室堂集団施設地区）

終点－富山県中新川郡立山町（大観峰）